

県内の小中学校・支援学校 大館の森永工場、閉鎖で **給食牛乳 小岩井に一本化**



県内の小中学校や支援学校で給食に出される200ミリリットル入りのパック牛乳が、本年度から岩手県雫石町の小岩井乳業小岩井工場で作られたものに一本化された。県北部と県央部の給食用に牛乳を生産していた東北森永乳業秋田工場（大館市岩瀬）が今年3月に閉鎖されたため。原材料には秋田、岩手両県産の生乳が使われている。

牛乳は牛から搾られた生乳を工場に運び、加熱殺菌などをした後にパックや瓶に詰めて製造する。小岩井工場が製造した牛乳は昨年度、県南部と由利本荘市、にかほ市の学校に提供され、それ以外の地域は東北森永乳業秋田工場の牛乳が使われていた。秋田工場は森永乳業（東京）のグループ会社・東北森永乳業（仙台市）が運営。前身の会社を含めて1959年から給食用の牛乳を供給していたが、森永乳業の生産拠点再編のため3月末で生産を終了した。

県内では2012年3月に県農協乳業（横手市）が解散しており、秋田工場の閉鎖で県内に給食用の牛乳を供給できる工場がなくなった。これを受け、県内の酪農家が県内工場に供給していた給食用の生乳を小岩井工場に納入している。給食用牛乳の配送事業は本年度、本荘由利地域と湯沢雄勝地域を秋田県南部酪農協同組合、このほかの地域をJA全農あきたが担当。小岩井工場からの牛乳の調達と各学校への配送を担う。

県保健体育課によると、本年度は約250校の6万1310人へ学校給食牛乳を提供する。輸送代や牛の飼料代などの増加が影響し、供給価格は昨年度に比べ約12%増えたという。同課の担当者は「成長期の子どもの栄養源として牛乳は大切な役割を持つ。これまで通り給食用の牛乳を確保、提供していく」と話した。（出澤陽立）

（令和8年6月30日（火）秋田魁新聞より一部抜粋）